

運動時のスポーツウェア被服行動に影響を及ぼす心理的要因の検討

- 被服関心, 自尊感情, 関与に着目して -

野田 尚輝 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

指導教員 山本 達三

キーワード: 被服関心, 自尊感情, 関与

1. はじめに

被服に関する人間行動を社会的脈絡からとらえる被服心理学の分野で, 被服行動尺度(永野, 1994), 被服関心尺度(神山, 1983)などが開発されてきた. 前田(2014), 袋谷(2007), 藤原(1982)は自尊感情と被服行動に関連性があることを報告しており, 自尊感情の高低により個性を強調する被服行動や慎しみ深い服装を好むかに差があることを報告している. 被服行動と自我関与の関連を検討した研究では神山(1986)があるが, その研究数は少ない.

本研究では, スポーツウェアの被服行動に着目し, 運動・スポーツ実施時の被服行動に被服関心・自尊心・関与の3つの心理的要因がどのように影響を与えているのかを明らかにする.

2. 研究方法

本研究では質問紙によるアンケート調査を, スポーツ単科大学生を対象におこない, 331 票配布, (有効回答数 307 票) した. 統計分析は信頼性分析, 因子分析, t 検定, 重回帰分析などを行った.

3. 結果

t 検定の結果では, 被服行動の高低群で比較した場合, 被服関心, 関与で1%水準, 自尊心で5%水準の有意な差がみられた. 被服関心の高低群で比較した場合, 被服行動の流行性, 機能性, 適切性, 経済性の4要因で1%水準の有意差がみられた. 自尊心高低群で比較した場合は, 流行性・経済性に1%水準で有意な差がみられたが, 機能性, 適切性では有意差がみとめられなかった. 関与の高低群では, 流行性・経済性に1%水準, 機能性では5%水準で有意差がみられた.

表は被服行動に影響を与える3つの心理的尺度について重回帰分析を行った表である. 流行性は, 被服関心の「心理的安定感を求める」の要因以外

表 被服行動に影響を与える心理的要因の重回帰分析の結果

被服関心		高群	低群	t値	有意性
流行性	n	145	147		
	M	3.03	2.32	8.87	**
	SD	71	65		
機能性	n	147	144		
	M	3.54	3.30	3.56	**
	SD	54	60		
適切性	n	147	146		
	M	3.80	3.46	4.74	**
	SD	59	63		
経済性	n	147	145		
	M	3.20	2.81	5.39	**
	SD	63	61		

*p<05,**p<01

と, 関与の「pleasure」の要因で有意な正の関連性がみとめられた. 機能性では, 被服関心の「似合いの良さを追求」, 「快適さを求める」の要因で有意な正の関連性がみとめられた. 適切性では機能性と同じく, 「似合いの良さを追求する」, 「快適さを求める」の要因で有意な正の関連性がみとめられた. 経済性では, 被服関心の「個性を高める」, 関与の「pleasure」の要因で有意な正の関連性が認められた. また, 自尊心と関与の「centrality」, 「sign」の要因は, いずれの4要因とも有意な関連性はみとめられなかった.

4. 考察

被服行動に対して, 個性を高める, 似合いの良さを追求する, 快適さを求めるなどは強い関連性がみとめられ, 逆に自尊心の関連性がみとめられなかったことから, 先行研究とは違った結果になった. この背景には, スポーツ大学生は一般人とは自己概念のあり方が異なると考えられる.

参考文献

- 1) 神山進 (1983) 被服関心の概念とその測定 ギュレルの研究の追試. 繊維製品消費学会誌, Vol. 24, P35-41.
- 2) 永野光郎 (1994) 被服行動尺度の作成. 大阪樟蔭女子大学, Vol. 35, pp. 468-473.
- 3) 神山進 (1986) 衣料品の美的/実用的特性にかかわる態度と行動の検討. 繊維製品消費学会誌, Vol. 27(11), P478-484.